

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣1階		
所在地	岐阜県本巣市文殊959-1		
自己評価作成日	平成26年12月12日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyousoCd=2193400021-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人と和の繋がり」の理念に基づき、入居者様、ご家族、職員、地域の和を大切に、毎日楽しく生活出来るよう支援しています。入居者様とご家族との関係を密にとり、情報交換をして日々の生活に繋げています。

利用者様と職員のみの関係でなく、地域の方に積極的に来訪していただき、ボランティアに参加して頂くよう目指しています。

また、職員研修を定期的に行ない、知識や技術の向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアに対する知識と経験が積み重ねられ、職員のより良いケアを目指す思いが満ちた事業所である。コミュニケーションを大切にしており、利用者と職員、家族が互いを尊重し気持ちを思い合う良い関係作りがされ、運営に対しての意見も言いやすい。また利用者の会話が多くの、明るく伸びやかに毎日の生活を送っている。昨年、地域密着の視点から職員全員で話し合い、理念を作り直している。自治会に参加し、地域行事に積極的に出かける中で地域の認知を得、また運営推進会議には施設関係者や行政、さらに自治会長や民生委員など地域の参加があり、レクチャーをしたり共に考える場にしたりなど、うまく地域へ溶け込む場となっている。日常の散歩や外出では、家族の協力や個別対応を組み込んだ支援を取り入れることで、以前よりも外出の機会が多くなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関とホールに掲げ、朝の申し送り時に確認し、勤務に入る。 月2回のユニット会議時に理念を共有し実施していく様に話し合っています。	地域密着型への思いから、半年前、全スタッフ参加の運営会議で理念の変更を行っている。ユニット会議では理念に関する実践を順に発表し、理念に立ち返り見つめる中でより良いケアへの方向性を追求している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙、踊り、手品等、地域の方がボランティアに来て下さっています。 地域の行事に参加しています。	自治会に加入し、側溝の掃除をしたり左儀長や織部祭り等の地域行事にも参加するなど、関係を密にするよう努めている。近所への散歩中に地域住民から声をかけられ農作物をもらうなど、良好な関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様と一緒に事業所周辺に出かけ、地域の方に会えばお話をしたり、畑で取れた野菜やお花を頂いたりして交流しています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では施設での生活や取り組みについて報告し、会議メンバーから意見や情報を頂き、参考にしサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、施設長・ケアマネジャー・自治会長・民生委員・行政・家族で2ヶ月に一度行っている。散歩などホームで取り組んでいることについて意義や内容を説明し、興味を持って聞いてもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で施設の取り組みなどを報告しています。介護相談員にも来訪して頂き、協力して頂いています。	生活保護の指定について助言をもらったり、相談に行くなど、市町村とは連絡を密にしている。市役所からの見学もあり、来訪時には施設内を見てもらうことにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設に於いて「身体拘束」の研修を実施し、拘束をしなくていい支援が出来るように取り組んでいます。	拘束については職員間で研修を行い、拘束をしないケアを行っている。玄関の鍵は開けてある。利用者の不穏時などやむを得ない場合には、理由・方法・期間を明記した同意書をもらい、出来る限り短い期間で行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設に於いて「逆待防止」の研修を実施し、職員同士が注意を払い、声を掛け合って虐待に繋がらないように努めています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護に関する制度」の研修を実施していますが、現在施設で支援している方はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をとり説明を行ないます。家族の不安や疑問点、要望等を尋ね、理解して頂けるよう説明を行なっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の代表に運営推進会議に参加して頂き、意見をお伺いしています。またご家族様来訪時にはお話を聞く機会も設けています。	玄関の苦情箱や毎月のお便りで、意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。家族の訪問時には顔なじみのスタッフが笑顔で迎え、情報を伝えている。家族の話から外出の機会が増えたりなど、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業者がヒヤリングの場で職員の意見を聞きます。ユニット会議の時も個々の意見や提案を聞き、反映できるよう努めています。	職員には悩みも含めヒアリングを定期的に行っており、会議でも職員の意見を努めて聞くようにしている。職員の意見から、接遇の研修会の開催に繋がったこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に数回ヒヤリングを行なって、職員の思いや目標を聞いています。職員間での評価を行い、自己評価と共に客観的な評価に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会があり、研修内容を検討・作成しています。ユニット会議の時に研修をし、施設長、チーフの指導にて技術、知識が向上できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が他のグループ施設に出向き、委員会を通じて、意見交換や事例検討を行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問でご本人と面接して、思いを傾聴し安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し、安心と信頼をして頂けるような関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人の思いを傾聴し、情報提供をしながら、良いサービスを利用出来るよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に行ってしまうことがあるので、出来る限り一緒にやって頂けるよう、声掛けと支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様本人とご家族様の思いや要望をお伺いしながら、良い関係が築けていけるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士がご近所だった方の会話の場の支援をします。	墓参りや家への帰宅は家族同行で行っている。生活保護の利用者に対しては、近所の人との関わりを大切にしている。近所の方が初めて来訪された際は温かく接待し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常茶飯時の中で、利用者様同士が仲良く、楽しく関わり合える空間を作れるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話で近況などを伺っています。 ご家族からの情報も頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや要望をお聞きして、日常の表情や反応をみることで思いをくみ取りながら支援しています。	コミュニケーションを大切にしており、利用者の思いは食事の準備や後片付けの作業時に聞くことで把握に努めている。会話で把握できない利用者の場合には、散歩時の表情等の反応を見ながら汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人との日々の会話の中から、今までの生活を多く知り、サービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADL、出来ること、出来ないこと、生活パターンを把握し、日々の暮らしの流に沿って状況を把握していくよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、ご本人、ご家族からの情報を含め、カンファレンスに於いて職員全員でモニタリングを行い作成しています。	利用者の担当職員がアセスメントを行い、月1回ユニット会議で他の職員と情報を共有し、意見交換でケアマネージャーの計画作成に繋げている。	経歴や馴染みのものなど、アセスメントをさらに充実させ、また評価を次の計画に活かしより良いケアに繋げるために、計画ケアの内容を具体的にする取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りなど日々の様子、気づきの情報を共有し、モニタリングを行い介護計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の状況に応じて情報を収集し、新たなニーズに応じられるよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護、訪問歯科、マッサージ、理美容、ボランティア等のサービスを取り入れ、地域の人と一緒に暮らせるよう取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの主治医による月2回の訪問診療があり、必要な時は他病院への受診も支援しています。	これまでのかかりつけ医を継続することもできるようにになっている。その上でホームの主治医による月2回の訪問がある。受診の際は家族の協力を得たり事業所での対応で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は週一回の訪問看護師に利用者様の心身状態や異常、気づきを伝え相談し、適切な看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供をしっかりと行い、面会時には病院関係者との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針をもとに説明を行い、必要に応じてご家族と話し合いを持つようにしています。職員の看取り介護研修を行なっています。	現在事業所での看取りは行っていない。入居時には看取り指針をもって事業所のできる範囲を伝え、納得してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルで研修を行なっています。応急手当については訪問看護師の指示を仰ぎます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に訓練を実施しています。地域の方への協力を運営推進会議でお願いをしています。	利用者参加や夜間想定訓練も含め、年4回の訓練を実施している。近所の方も駆けつけてもらえることになっているが、これからは地域との連携をより強化していくことを検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、誇りやプライバシーに配慮した言葉使いや言葉かけの対応に努めています。	職員は利用者に敬意を持って接しており、トイレ誘導時には声掛けの仕方や場を配慮している。また居室でのおむつ交換のときは戸を閉めて行う等、プライバシーにも気遣ったケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の能力に応じた選択が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で一人ひとりのペースを大切にし、日々を過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服を選んで着ていただいています。くしを常備されている方は、洗面所で整髪出来るよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、好みの物をお伺いしています。 テーブル拭きや食器拭き等を一緒に行なえるよう支援しています。	食事を楽しんでもらうため、庭の菜園の野菜と一緒に収穫して使ったり、希望を取り入れた献立を提供している。利用者は能力に応じて、トレーの用意やもやしのヒゲとり、食器拭きや後片付け等に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしています。 一人ひとりの心身状態に合わせ、食事量や食事形態を考えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声掛けと介助を行なっています。月2回の訪問歯科によるケア、治療も行なっています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を元に一人ひとり自立に向けて、声掛け・誘導・介助を行なっています。	利用者一人ひとりの排泄をチェック表で把握し、状況に合わせて自立を目指した声掛け、誘導、介助という排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の食物繊維を多く採れるようにしたり、夕食時にヨーグルトを召し上がっていただいています。 体操や運動の支援もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様の要望に沿って、入浴をしていただけるよう努めています。	各階の個浴の他に1階には器械浴も設置され、利用者の状況に合わせて利用されている。夜間の入浴習慣の方には夜間に対応したり、入浴剤を使って楽しんでもらうなど、積極的な働きかけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、要望に応じて休息していただいています。夜間の照明も個々の要望に応じた対応に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について職員全員が把握して支援しています。症状の変化により薬の追加、変更があった場合は申し送りに依り、確認と周知をしていきます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を楽しく過ごせるよう利用者様皆さんで出来ることを支援しています。 洗濯物たたみや食器拭き等を行なっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にて外出する機会を作っています。日常的には近くの神社やホーム周辺へ散歩に出かけるよう努めています。	年間行事の外出により、季節や遠出のドライブを楽しんでいる。日常の散歩や外出では家族の協力と個別での対応を取り入れた支援を行い、以前よりも外出の機会が多くなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっていますが日常的に使えるように配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をしたり、家族との連絡が取れるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を心がけています。リビングの壁面にイベントや写真等を貼り、皆さんと一緒に見て思い出されています。	壁には行事の時や折々の日常の写真、手作りの飾りなどが貼られ、明るい雰囲気となっている。事業所がとっている毎日の新聞が置かれ、木目のTV台やソファもあり、心休まる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファ席など自由に移動され、気の合った方同士で楽しくレクリエーションしたり、お話されたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との協力で家具、テレビ、冷蔵庫等、使い慣れた物を持ってきていただいています。	趣味のものを飾ったり、家族の写真を貼ったり、TVや冷蔵庫を持ち込む利用者もいて、自分らしい部屋の使い方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の名札、トイレの案内表示、手すり、洗面所の高さの調節をし、一人ひとりの身体機能の状態に合わせた設備や環境作りを工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巢		
所在地	本巢市文殊959-1		
自己評価作成日	平成26年12月11日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2193400021-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南瀬町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成27年1月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『人の和の繋がり』のケア理念の下、利用者様のマイホームとして生きる力を引き出すような支援を心掛けています。主に利用者様による手作りの飾り付けを壁飾りとして利用させて頂いたり、行事などの催し物ではご利用者様の意見を大事に踏まえた上での計画立案と実施。家事なども分担し、玉ねぎを切ったりもやしの芽を取ったりなどの簡単な調理補助なども行って頂きグループホームの特色を活かした支援を主体で取り組んでいます。

常に利用者様に寄り添った介護を心掛け、介護の基礎であるコミュニケーションなどにも力を入れスタッフ全体で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『人の和の繋がり』新しいケア理念を掲げ、理念に基づいたケアを実践するようにリビング内での掲示や会議での周知を通して心掛けてケアを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際に近所の方と挨拶を交わしたり畑で採れた野菜などお持ち頂いたりなどの交流があり、地域ボランティアの受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアなどお越しいただいた時には、お菓子などを利用者様と一緒に召し上がって頂きホームの近状報告や談話を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長をはじめ民生委員や市役所担当者、広域連合職員、地域包括職員などサービス向上に向けた話し合いや情報交流を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回相談員のかたがお越しになられ、利用者様と交流され助言や協力を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し職員内研修を通じて全職員が拘束の無い支援に努めている。施設の防犯上やむなく玄関の施錠をしているがご家族様来訪時は事務所より開閉を行いお出迎えをしている。拘束に関し切迫性の生じる方に対してはご家族様に同意を得て、経過記録を記入し見直し等を繰り返すことで早期中止に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の言葉遣いに慣れ合いが見られることがあり、研修などを通して職員同士が注意し合える環境を作り、虐待に繋がらないよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加しユニット会議にて他のスタッフに伝えているが現在は活用されていないので今後は積極的に学び活用出来る環境を整えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は文章の口頭説明に加え一つ一つご家族様と読み合わせご理解頂くことに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスターや苦情受付ポストを設置し、面会時には積極にご家族様意見交換を行い、運営推進会議にてご提案されたご家族様意見も参考にして、運営時反映に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回ユニット会議の場を設け、現場でのケアにおける意見交換や改善案を検討している。その他に月に1回運営会議にてチーフと施設長による運営に関する会議を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員等にも人事考課を実施しそれぞれの努力や功績・実績にたいして評価することによりスタッフ同士の意識向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が介護に対して悩んでいる事、意見などを聞いて職員と一緒に考えている。研修の機会を設けレポート提出してもらい、現場に活かしたケアを実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、エリアマネージャーが対応している。地域包括や広域連合などの教育研修も利用している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問の段階で、ご本人様の想いや嗜好を傾聴し生活の中に取りいれていけるよう会議などで検討し、不安の多い入所初期に職員全員が同じケアに取り組めるような体制作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問の段階で、ご家族様の意見や気持ちを察し聞き取ることで入所後の対応へと活かし、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報によりユニット会議で利用者様の事を話し合い必要とするサービスをご本人様、ご家族様と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員もご利用者様の家族のように支え合い、一緒に調理や食器拭き・洗濯物たたみなどの家事など行い、暮らしを共に生きていく環境作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、普段の様子や本人様の希望・想いを伝えて一緒にドライブや外食などの提案や事前準備を行い、面会頻度が少ないご家族様には手紙や電話などで適時報告や連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の方の面会時など空間に配慮し居室でゆっくり交流して頂いたり、面会後に職員からも積極的に交流し次回も来て頂けるような信頼関係構築に努めたり、ご要望により自宅付近や馴染みの地域をドライブしたりと対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に座席配置を少しずつ変更したり、共同で行えるレクリエーションを考案し職員が仲介に入り取り組んで頂いたり、ご利用者様の輪を大切にしたい支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も様子や、状態を伺い関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、本人の感情や趣味嗜好を把握し、食事やレクリエーションの視点から生活内に組み込み生活の質向上に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前よりアセスメントの中で、生活歴や環境を聴き入所後の状態と照らし合わせより昔の生活に近づけていけるような支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段のバイタルチェックや介助の中から、本人様の状態や体調の変化、精神面などの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の今の生活の状態、身体の状態を把握し、今必要とするケアサービスは何かユニット会議で話し合い、サービスの提供を行っている。		
27	y	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフがケアしたことによっての利用者様の行動や話したことなどを介護記録や申し送りに記入しユニット会議で情報の共有をする事で、スタッフ全員が一人の利用者様に対して同じケアができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢のため、体調の変化は日々変わり、その時の状態に合わせて対応し、サービスの提供を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の要望や普段の交流により本人様の希望を把握し、マッサージや訪問歯科、様々な行事・ボランティアなど地域の方の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回往診があり、利用者様が体調が悪い時は随時連絡をとり、状態に応じて他の専門科病院の紹介を得て受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや介護記録などの情報共有を行い、状況を判断出来るように努め適切な看護や受診を受けられるような支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、主治医から利用者様がどのような治療を受けられるのか聞き、本人と面会し状態を確認したり、病院関係者と連絡をとり、退院されても施設で生活ができるよう、サービスの提供の仕方を職員同士で話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設の規定に沿って対応し、利用者様の状況や様態はこまめに家族様へ報告し少しでも面会に来て頂ける環境作りや、終末期の対応を家族様共に話し合いの場を作り家族様と施設の方向性の統一を図り利用者様を支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や発熱時のマニュアル表がある。職員はマニュアルを把握し、利用者様の状態が急変したときは、利用者様の状態を見ながらマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は昼、夜の設定を定期的に行い、職員が災害時に利用者様を的確に誘導し避難できるよう、消防署に連絡して訓練を行い、指導受けている。年4回の実施に合わせて風水害教育も行っていく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	若くて元気に過ごされていた頃の生活に戻って話されることが多い。思い込みで話されることも多い。否定せず本人の話を受け止め個々に合わせた対応に努めている。。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思のしっかりされている利用者様が多く自分のペースで過ごされている。本人のペースを崩さないように支援している。自己決定が出来ない利用者様には、声掛けし、選択して頂ける方法で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の嗜好に合わせレクリエーションや活動を行って頂いている。カルタ取りや歌の合唱、写経など様々な取り組みを考案し提供させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣やモーニングケアに始まり食後の口腔ケアや眠前の洗面などの介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを考える時に利用様に食べたい物を聞いて取り入れたり、誕生日の時に本人の好きなものを提供したり、季節の物を出して季節を感じてもらい、見た目でも楽しみめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状態に応じて食事形態を変えて提供している。水分量の少ない方には、飲み物の種類を変え嚥下状態も考慮しトロミも使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ブラッシングやポリデント洗浄など個々に合ったケアを行い、定期的に訪問歯科による健診やケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ使用だが、昼間はリハパンをはいてもらいトイレ誘導し、トイレで排尿ができるよう支援している。排泄表を見てトイレ誘導したり、声かけを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	最終排便を確認し、間隔を考慮した上でテレミン座薬やプルゼ錠を服用して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一週間に二回は入浴が行える様に配慮し、ご本人様の気持ちを優先し気分が優れなかったり入りたくない時は日付をずらして入浴され、本人様の身体状況に合わせて洗身や洗髪介助を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用様一人一人の生活リズムがあり、本人が過ごしたい場所、安心できる居場所を職員が把握し誘導している。夜間は安眠できるよう居室の温度調整をしたり、訴えを聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用様がどんな薬を服薬しているか処方箋を見て確認し、服薬されている薬が変わった時は、その後の体調変化に注意している。服薬によってのふらつきにも注意し、職員全員が利用者様の状態を把握できるよう介護記録に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様とコミュニケーションをはかることで、利用者様の食べたいもの、今したい事など会話の中から聞き取り、日常生活の中で利用者様の要望に応えることができるよう、職員同士話し合い、サービスの提供をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の行きたい場所を聞いたり、食べたい物を聞いたりして、1ヶ月に1回のレクが、外出できるよう企画し、外出する事で、風景や食べ物を通して、季節を感じてもらえるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時に、利用者様にお金を持ってもらい、欲しいものを自ら選んでもらい支払やお釣りを受け取ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様から手紙が定期的に届いたり、自分で必要とされる物を電話で連絡されたり、携帯電話で家族の方と連絡をとってみえる方もみえ、それが途切れないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所に季節の飾りをする事で、1年の四季の移り変わりを感じてもらい、行事やレクリエーション・日常生活の様子を写真に収め壁新聞として貼っており、その他トイレや浴室・台所など細かな所の清掃も取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有ペースの中で利用者様がいつも過ごされている居場所で、日常生活が送れるように支援し、その場所にいると利用者自身もホッと安心できる居場所づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染の物や家族の写真を飾ったりして、自宅で生活していた部屋と同じくらい安心して過ごせるよう支援している。居室に大きな仏壇をお持ちになられてみえる方もみえます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	声かけの介助を中心に残存機能を活かし、サポート出来る位置で見守りや介助を行っている。車椅子を自走される利用者様が多いので、安全に車椅子で自走できるよう廊下には物は置かないようにしている。		